

修士論文（要旨）
2024 年 1 月

禅僧の語りから見えた老年的超越
—SCAT を用いた質的研究—

指導 渡辺 修一郎 教授

国際学術研究科
国際学術研究
老年学学位プログラム
222J5001
小林 雅子

Master's Thesis (Abstract)
January 2024

Gerotranscendence through the narratives of the Japanese Zen Monks: Qualitative Study
using SCAT

Masako Kobayashi
222J5001
Master of Arts Program in Gerontology
Master's Program in International Studies
International Graduate School of Advanced Studies
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Shuichiro Watanabe

目次

第1章 序章	1
1.1 老いとは	1
1.2 老年的超越理論とは	1
1.3 離脱理論とは	1
1.4 研究テーマと背景	2
第2章 研究目的と意義	3
2.1 先行研究	3
2.2 研究目的	3
2.3 研究意義	3
第3章 研究方法	4
3.1 研究協力者	4
3.2 研究方法	4
3.3 インタビューガイド	5
3.4 倫理的配慮	6
第4章 分析方法と手順	6
4.1 分析方法	6
4.2 分析手順	6
第5章 分析結果	6
5.1 僧侶Aの分析結果	6
5.2 僧侶Bの分析結果	12
5.3 僧侶Cの分析結果	15
5.4 僧侶Dの分析結果	19
5.5 分析結果のまとめ	23
第6章 考察	26
6.1 禅僧の老年的超越の次元について	26
6.2 禅僧の老年的超越の特徴について	27
第7章 終章	28
7.1 結論	28
7.2 課題	29
謝辞	29
凡例	29
参考文献	I
引用文献	I
参照文献	II

第1章 老年的超越理論とは

本研究テーマである「老年的超越理論」は、スウェーデンウプサラ大学の社会学者ラーシュ・トーンスタム (Tornstam Lars) が 1989 年に提唱した、「変化と発達を強調する立場」の理論である。概念定義は、高齢期になると高まるとされる、物質的で合理的な世界観から、宇宙的で超越的な世界観へのメタ認識における移行である。その次元は、宇宙、自己、社会と個人の関係、の 3 つで構成される。当理論が提唱されるまでは、主にサクセスフル・エイジングやアクティブ・エイジングなど、社会的に望ましい老化のあり方を称賛する「活動理論」が主流であったが、トーンスタムはそのような社会に異議を唱えるべく、東洋思想の観点から「離脱理論」をメタパースペクティブに捉え直す斬新な理論を提示したのである。

第2章 先行研究について

老年的超越に関する先行研究では、75 歳以上の高齢者には、自己・宇宙・社会との繋がり of 三次元において強い相関が示されたこと (増井 2010, 2016)、高齢になるほど孤独を感じなくなり繋がりを実感すること (中川, 増井ら 2011)、宇宙的次元は、人生でのネガティブな体験 (富澤 2009、増井ら 2010、Sanna Readal ら 2013、Taiane Abreu ら 2021) や、信仰心 (Fereshteh Ahmadi, 2000、Arjan W 2006) と強い相関があること、社会的要因よりも精神的健康への影響が大きい (増井ら 2019) などの報告がある。

東洋思想的側面から精神世界に焦点を当てた質的研究では、日常生活からこの世を超えた精神性世界へと昇華する結果が示されている (林・芳賀 2012、富澤 2009)。

一方、批判や課題も指摘されており、中川 (2008) は、看護学及び社会学的立場から指摘された 3 つの批判 (Hauge 1998、Jönsson & Magnusson 2001、Thorsen 1998) を取り上げている。エリクソンの発達段階における、第 8 段階から第 9 段階への不明確な過程については、(末田 2008、中川 2008、林, 芳賀 2008) が取り上げている。また、老年的超越は日本人にも適用されるのか (中島ら 2001)、スピリチュアリティとの関連性について議論が必要 (末田 2008、岡本 2013)、老年的超越理論の到達が及ぼす社会的意味の検証が不十分 (佃 2008)、下位尺度の内容的妥当性に改善の余地がある (増井他 2013)、などが挙げられている。

第3章 研究目的と意義

先行研究を紐解くことにより、「老年的超越は 85 歳以上の超高齢に達しないと高まらないのか」「禅僧は老年的超越理論の宇宙的次元、もしくは 3 次元全てにおいて既に超越しているのではないのか」という問いが生まれた。本理論の枠組みが東洋思想や禅から生まれたこと、禅僧の坐禅時には脳波に α 波や θ 波が現れること (茅原 2017)、変性意識状態に入れること (斎藤 2003)、丹田呼吸が脳内セロトニンを増加させること (榊原雅ら 2021)、などの報告を鑑みれば、禅僧は超高齢に達する前に超越を会得していると推測できる。しかしこれまでに禅僧を対象とした研究は前例がない。そこで本研究では禅僧への半構造化インタビューを行い上記 2 つの問いを検証しつつ、「老年的超越理論」を禅的要素から後押しすることを目的とする。

第4章 研究方法と分析

研究対象者は、禅宗 (曹洞宗及び臨済宗) に従事する 65 歳以上の僧侶とした。選定方法は、曹洞宗の公式サイト「曹洞禅ネット」、臨済宗の公式サイト「臨黄ネット」、及び僧侶が答えるお悩み相談サイト「hasunoha (ハスノハ)」に登録している僧侶とした。

各サイト管理者よりそれぞれ 1 名のインタビュー対象者を紹介していただき、2023 年 3 月末から 8 月上旬に掛けて実施した。分析は、データに潜在する深層の意味理解を可能にし、作業の可視化とプロセスの明示化が特徴の質的データ分析手法 SCAT (Steps for Coding and Theorization) (大谷 2007) を用いた。老年的超越についての禅僧の語りの内容からコーディングを行い、そのコードを基に次元を抽出し、トーンスタムが定義した老年的超越の 3 つの次元、コード、老年的超越の兆候とを対比させ、禅僧の老年的超越の特徴を検討した。

第 5 章 分析結果と考察

分析の結果 74 個のコードが生成された。4 人の僧侶には敢えて自由に語っていただいたにも関わらず、全員にトーンスタムが定義した 3 つの次元が認められた。最も多かったのは自己の次元で 30 個、宇宙的次元が 26 個、社会と個人の関係の次元が 15 個だった。また、いずれにも該当しないものは 3 個だった。自己の次元の中で最も多かったのは、自我統合の 15 個だった。自我統合は、E. H. エリクソンが提唱した心理社会的発達理論の第 8 段階から導き出されており、僧侶ならではの結果だったと言える。また、精神性の観点から行った先行研究と同様、本研究においてもトーンスタムの定義した要素に該当しないコードが認められたが、これらは禅の神髄とも言える要素である。従って、「老年的超越理論」の枠組みが西洋哲学から東洋の禅に求められたこと、及び本研究で得られた結果を踏まえ、「東洋的要素」の追加を提言したいと考える。

尚、SCAT の分析結果は分析者の数だけあり得る (大谷 2008) ことや、本研究結果を鑑み、複数名による分析、及び僧侶の年齢を中高年層に広げた量的研究を今後の検討課題としたい。

参考文献

引用文献

- E. H. エリクソン 村瀬孝雄, 近藤邦夫 (訳) (1989). ライフサイクル, その完結. みすず書房
- 大谷尚 (2007). 4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案 ― 着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き ―. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要. 第 54 巻第 2 号
- 大谷尚 (2011). SCAT: Steps for Coding and Theorization ― 明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法 ― 感性工学 Vol.10 No.3
- 大谷尚 (2019). 質的研究の考え方 研究方法論から SCAT による分析まで. 名古屋大学出版会
- 岡本宣雄 (2013). 高齢者の Spiritual well-being の概念位置づけと特徴. 川崎医療福祉学会誌 Vol.23 No.1 37-48
- 小田利勝 (2004). 社会老年学における適応理論再考. 神戸大学発達科学部研究紀要第 11 巻第 2 号. 361-376
- C. G ユング. 松代洋一, 渡辺学 (訳) (1995). 自我と無意識. レグルス文庫
- 河合隼雄 (2015). ユング心理学と超越性. 岩波書店
- Kirsten Thorsen, Dr. Philos (1998). The paradoxes of gerotranscendence: The theory of gerotranscendence in a cultural gerontological and post-modernist perspective, Norwegian. Journal of Epidemiology 8 (2): 165-176
- Sanna Read, Arjan W. Braam (2014). Do negative life events promote gerotranscendence in the second half of life?. Aging & Mental Health
- シモーヌ・ド ボーヴォワール. 朝吹三吉 (訳) (2013). 老い上巻下巻. 人文書院
- 斎藤稔 (2003). 変性意識状態と禅的体験の心理過程. 立命館人間科学研究第 5 号
- 榊原雅人, 藤井滋樹 (2021). 近世養生法と現代リラクセーションー白隠禅師・夜船閑話をもとにした考察ー. 愛知学院大学心身科学部紀要第 17 号 (13-25)
- 末田啓二 (2019). 我が国の高齢者への「老年的超越」概念の適用に関する問題点. 甲子園短期大学紀要 37 1-7
- 杉澤秀博, 長田久雄, 渡辺修一郎, 中谷陽明 (2021). 老年学を学ぶ: 高齢社会の学際的研究. 桜美林大学出版会
- 鈴木大拙 (1940). 禅と日本文化. 岩波新書
- 鈴木大拙 (2008). 禅仏教入門. 文芸春秋
- 茅原正 (2017). 坐禅時の呼吸 脳波と脳血流ーその相互関連性に関する総合的検討・考察ー. 駒澤大学心理学論集 第 19 号, 11-22
- TAIANE DANTAS DE ABREU (2020). Gerotranscendence. Religiosity and Life Satisfaction: a Study with Clergy and Consecrated Religious vs General Public. Universidade de Aveiro
- 佃亜樹 (2008). サクセスフル・エイジングの再定式化への一考察ージェロトランセンデンス理論の到達点と課題ー. 立命館産業社会科論集第 43 巻第 4 号
- 富澤公子 (2009). 奄美群島の日常からみる「老年的超越」形成意識ー超高齢者のサク

- セスフル・エイジングの付加要因- 老年社会科学、30(4) 477-488
- 富澤公子 (2010). 奄美群島超高齢者の「老年的超越 (Gerotranscendence)」形成に 関する検討—高齢期のライフサイクル第8段階と第9段階の比較—. 立命館産業社会論集 第46巻第1号
- Tornstam Lars, Ph. D. (2005) Gerotranscendence: A Developmental Theory Of Positive Aging
- 中川威 (2008). 老年的超越理論に関する一考察：実証的研究と批判の動向. 生老病死の行動科学. 13 p. 93-p. 102
- 中島千宏 (2022). 日本人における老年的超越の構成要素の検討—老年的超越と超高齢者の生の意味および幸福感の比較—. 生老病死の行動科学第26巻p 11-22
- 中畠康之, 小田勝利 (2001). サクセスフル・エイジングのもう一つの観点—ジェロトランセンデンス理論の考察—. 神戸大学発達科学部研究紀要、8(2) 255-269
- 中野明德 (2020). E. H. エリクソンの人生とアイデンティティ理論. 別府大学大学院紀要 (Bulletin of Beppu University Graduate School). No. 22 (2020.3), p. 31- 50
- 中村元 (1970). 原始仏教 その思想と生活. NHK ブックス
- 林雅子, 芳賀博 (2008). ジェロトランセンデンスの視点からみた超高齢者のサクセスフル・エイジング. 老年学雑誌 第3号
- FERESHTEH AHMADI LEWIN (2001) Gerotranscendence and different cultural Settings. Ageing and Society 21
- Fereshteh Ahmadi PhD (2001). Reflections on Spiritual Maturity and Gerotranscendence: Dialogues with Two Sufis, Journal of Religious Gerontology, Vol. 11(2)
- 増井幸恵, 権藤恭之, 河合千恵子, 呉田陽一, 高山緑, 中川威, 高橋龍太郎, 藺牟田洋美 (2010). 心理的 well-being が高い虚弱高齢者における老年的超越の特徴—新しく開発した日本版老年的超越質問紙を用いて—. 老年社会科学 32 (1) 33-46
- 増井幸恵 (2014). 話が長くなるお年寄りには理由 (わけ) がある—「老年的超越」の心理学. PHP 研究所
- 増井幸恵 (2016). 老年的超越. 日老医誌 53 210-214
- 増井幸恵, 権藤恭之, 中川威他 (2019). 地域高齢者の精神的健康の縦断変化に及ぼす老年的超越の影響の検討—疾患罹患・死別イベントに対する緩衝効果に着目して—. 老年社会科学 41(3):247-258
- ラーシュ・トーンスタム, 富澤公子, タカハシマサミ (訳) (2017). 老年的超越—歳を重ねる幸福感の世界—. 晃洋書房

参考文献

- Arjan W. Braam, Inge Bramsen (2006). *Cosmic Transcendence and Framework of Meaning in Life: Patterns Among Older Adults in The Netherlands*. The Gerontological Society of America, Vol. 61B, No. 3, S121-S128
- Asta Marie Olafsson, Linda Rykkje (2022). Existential Issues in Old Age as

- Narrated by Older People? An Interview Study from Norway” Religions 13, 259
井上ウィマラ (2014). マインドフルネスとスピリチュアリティ. 人間福祉学研究第 7 巻第 1 号 2014. 12
- Erik S. Wortman, Jordan P. Lewis (2021). Gerotranscendence and Alaska Native Successful Aging in the Aleutian Pribilof Islands, Alaska. Journal of Cross-Cultural Gerontology 36:43-67
- 大隅彰 (1993). 最終講義 寿命とその背景. 東医大誌 51 (5) : 411~419
- 河合隼雄 (1978). ユングの生涯. レグルス文庫
- 河合隼雄 (2020). 中年危機. 朝日文庫
- 川島大輔 (2008). 老年期にある浄土真宗僧侶のライフストーリーにみる死の意味づけ. 質的心理学研究 第 7 号 / 2008 / No. 7 / 157-180
- 木下康仁 (2007). ライブ講義 M-GTA : 実践的質的研究法 : 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて. 弘文堂
- 木下康仁 (2020). 定本 M-GTA : 実践の理論化をめざす質的研究方法論. 医学書院
- 柴田 博 (2006). 生涯現役スーパー老人の秘密. 技術評論社
- 杉澤秀博 (2015) サクセスフル・エイジングとは何か : 高齢期の生き方のモデル. TASC monthly 476. 12-17
- 竹田恵子, 太湯好子. 日本人高齢者のスピリチュアリティ概念構造の検討. 川崎医療福祉学会誌 (2006)
- 張欣宇 (2022). 中国における老年的超越の展望. 生老病死の行動科学 第 26 巻 p. 23
- Chaya Greenberger (2012). *Gerotranscendence Through Jewish Eyes*. J Relig Health (2012) 51:281-292
- Tornstam Lars, Ph.D. (2011). MATURING INTO GEROTRASCENDENCE. The Journal of Transpersonal Psychology, Vol. 43, No. 2
- 中野明德 (2020). E. H. エリクソンの人生とアイデンティティ理論. 別府大学大学院紀要 22 31-50
- 原田弘道 (1968). 駒澤大學佛教學部研究紀. 通号 26. p156-164
- Fahreen Rajani, Hena Jawaaid (2015). Gerotranscendence: A Critical Review, Journal of Psychology and Clinical Psychiatry Volume 4